

郷土づくりへの参加

菊池市水北子供会

「郷土にまつわる昔話や伝説を中心とした紙芝居をつくり、ふるさとを知ろう」と、清流と溪谷の美しい自然に囲まれた、菊池市立水源北小学校子供会（会長・六年生中川健一君）では、今年のはじめから、地区ごと七グループに分かれて、おじいさん、おばあさんから、その地区にまつわる伝説や昔話を聞き、放課後や日曜日、地区公民館などに集まって、紙芝居づくりに励んでいましたが、この程、全校生が力作を持ち寄り、発表会を開きました。作品の主なものに、「権現山のおじいさん」、「杵小僧物語」、「経塚物語」などがあります。

子供会活動の側面的な援助者で、同小学校子供会を育てる会の副会長菊池精也さんは、「紙芝居の作成作業を通じて、子供たちの連帯感や仲間意識が強くなりました。特に、この活動がふるさとにまつわる昔話等にテーマを置いていくだけに、ふるさとを知り、ふるさとを愛する心がはぐくまれてきたことが、大きな収穫です。次回からは、郷土に密着した民話劇を計画して活動を続けたい」と語っておられました。

子供会活動を通しての郷土づくりへの実践といえます。

◀真剣に紙芝居をみる子供たち



▲ふるさとに伝わる昔話を紙芝居にして発表する子供たち